

平成 27 年度事業報告

本報告は、定款第 39 条に基づき監事の監査を受け平成 28 年第 1 回理事会にて承認を得ております。

公益社団法人日本栄養・食糧学会 平成 27 年度（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）事業報告

<概要>

平成 23 年 9 月 1 日の公益社団法人化からの第 5 期目として、4 月 1 日より平成 27 年度の各事業をスタートさせた。5 月 14 日に社員総会を開催し、平成 26 年度決算書の件を決議するとともに、平成 27 年度事業計画の件、同年度収支予算計画の件等の報告を承認した。平成 26 年度事業報告書は 6 月 25 日内閣府に送付し、決算書類の誤りを指摘されたが、修正提出は求められなかった。また、7 月 24 日には公益法人への移行後初めてとなる内閣府の立入検査を受け、その指導に従って、規約類、公開文書の整備を順次進め、平成 28 年度社員総会において定款等の変更を審議、承認する計画としている。

栄養科学並びに食糧科学の振興と研究の活性化事業（公 1 事業）として、以下を行った。関東支部の担当による第 69 回年次大会（横浜市：会場・パシフィコ横浜、会頭・鈴木和春東京農業大学教授）は、第 12 回アジア栄養学会議（組織委員長：宮澤陽夫東北大学大学院教授）と合同開催され、海外からの 1,149 人を含む、3,732 人の参加を得て、基調講演、教育講演、シンポジウム、市民公開講座、一般講演等を通じて、アジアを中心とする世界の栄養科学・食糧科学最新の情報を確認しあう場となった。この会を通じて得られた経験が学会としての国際性を高め、平成 33 年に東京での開催が決まっている第 22 回国際栄養学会議の運営に役立つものと思われる。また、第 70 回年次大会については近畿支部担当（会頭・中野長久大阪府立大学名誉教授）で開催（神戸市、西宮市：主会場：神戸ポートピアホテル、武庫川女子大学）することになり、その準備として、プログラム、会場、運営等の活動を精力的に進めた。支部事業については、全支部において、それぞれに相応しいテーマのもとに支部大会およびシンポジウム等を開催した。

栄養科学並びに食糧科学情報の活用推進と普及事業（公 2 事業）においては、引き続き日本栄養・食糧学会誌を効率的な編集方針のもとに定期的に刊行（第 68 巻 2 号～6 号、第 69 巻 1 号）し、欧文誌 JNSV 刊行においても定期的に出版（Vol. 61-No. 2～No. 6、Vol. 62-No. 1）した。

理事会を中心に、公益法人としてのガバナンスの向上、会員サービスの向上に努め、利益相反（COI）については、前年度策定した利益相反委員会が利益相反指針並びにその細則の改訂素案について検討を加え、実施の準備をした。また、年次大会参加者の利便性向上の観点から、講演要旨集の Web 公開を実施しているが、使用言語が英語となる 12th ACN にも適応できるようにした。

また昨年度に新設した技術賞の選考を行い、2 件の受賞を決定し、本学会における産官学連携のさらなる推進を図った。

若手会員の活性化を目指した事業の検討を、学会活動強化委員会を中心に開始し、若手研究助成、優秀学生発表賞の新設を決定し、次年度からの実施の準備を進めた。

I 会員の動き

1) 会員の状況（平成 28 年 3 月 31 日現在）

名誉会員	35 名
終身会員	138 名
正会員	3041 名
学生会員	577 名
団体会員	66 件
賛助会員	68 件（80 口）
学会誌定期購読団体	121 件

2) 平成 27 年度（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）物故会員（敬称略）

名誉会員：舛重 正一、吉田 昭
終身会員：北岡 正三郎、楠 智一、千畑 一郎、豊川 裕之、森 文平
正会員：佐々木 晶子、島村 英理子、右田 光史郎

3) 支部別会員数 平成 28 年 3 月 31 日付

会員種別 支部名	名誉会員	終身会員	正会員	学生会員	団体会員	賛助会員 [口 数]
北海道支部	0 (± 0)	4 (± 0)	102 (−11)	26 (−14)	3 (−3)	1[1] (± 0)
東北支部	1 (± 0)	7 (+ 1)	174 (− 3)	40 (−25)	1 (−1)	0[0] (± 0)
関東支部	19 (− 1)	54 (+ 3)	1192 (− 2)	175 (−47)	34 (−5)	56[68] (+ 2)
中部支部	2 (− 1)	15 (+ 2)	353 (−13)	47 (−16)	6 (−2)	3[3] (± 0)
近畿支部	5 (± 0)	39 (± 0)	645 (−11)	171 (−23)	9 (± 0)	6[6] (± 0)
中国・四国支部	2 (± 0)	10 (± 0)	292 (− 7)	72 (+10)	10 (± 0)	2[2] (± 0)
九州沖縄支部	5 (± 0)	9 (± 0)	278 (−15)	44 (−12)	3 (± 0)	0[0] (± 0)
海外	1 (± 0)	0 (± 0)	5 (+ 1)	2 (± 0)	0 (± 0)	0[0] (± 0)
合計	35 (− 2)	138 (+ 6)	3041 (−61)	577 (−127)	66 (−11)	68[80] (+ 2)

() 内は平成27年3月31日会員に対する増減を示す。

II 各種事業活動の推進報告

< 栄養科学並びに食糧科学の振興と研究の活性化事業 (公1) >

1) 大会事業

(1) 第69回日本栄養・食糧学会大会の開催、第12回アジア栄養学会議 (12th ACN) の合同開催

・第69回日本栄養・食糧学会大会の開催 (会頭 鈴木 和春 東京農業大学教授)

平成27年5月13日 (木) ~5月18日 (月) パシフィコ横浜

市民公開講座 健康寿命の延伸

日本語シンポジウム 3テーマ

・第12回アジア栄養学会議 (組織委員長 宮澤 陽夫 東北大学大学院教授)

平成27年5月14日 (木) ~5月18日 (月)

* 基調講演

「Leptin and the Regulation of Food Intake and Body Weight.」

Prof. Jeffrey M. Friedman
(Rockefeller University, USA)

「Functional Food Science in Japan: Present State and Perspectives.」

Prof. Keiko Abe
(The University of Tokyo, Japan,
The Kanagawa Academy of Science &
Technology (KAST), Japan)

「The Present Role of Industrial Food Processing in Food Systems and Its Implications for Controlling the Obesity Pandemic.」

Dr. Carlos A. Monteiro
(University of São Paulo, Brazil)

「Multi-Stakeholders and Multi-Strategic Approaches for Food and Nutrition Security.」

Dr. Kraissid Tontisirin
(Mahidol University, Thailand)

「Chemistry and Safeguarding Marine Resources from Natural Contaminants.」

Dr. Takeshi Yasumoto
(Japan Food Research Laboratories,
Japan)

* 教育講演

「The Importance of the Inter-Tissue Communication Mediated by NAMPT/NAD⁺/SIRT1 in Mammalian Aging/Longevity Control: Is Anti-Aging Intervention Realistic?」

Dr. Shin-ichiro Imai
(Washington University School of
Medicine, USA)

「The Impact of Overweight and Obesity on Adolescence: Consequences on Metabolic Biomarkers.」

Prof. Ascensión Marcos
(Institute of Food Science,
Technology and Nutrition (ICTAN),
Spain, Spanish National Research
Council (CSIC), Spain, President of
FENS, Belgium)

「Nutrition and Health Promotion - From Molecular to Physiological Modulation.」

Dr. Sue-Joan Chang
(National Cheng Kung University,
Taiwan)

「Food-Based Dietary Guidelines of Southeast Asia: An Analysis of Key Messages」

Dr. E Siong Tee
(Southeast Asia Public Health
Nutrition Network, President of
Nutrition Society of Malaysia,
Malaysia)

「Why Do Behavior Interventions Fail? Insights from Behavioral Economics.」

Prof. Ichiro Kawachi
(Harvard University, USA)

「Food and Nutrition Security for Healthy Aging.」

Dr. Mark L Wahlqvist
(Zhejiang University, China,
Institute of Population Health, NHRI,
Taiwan, Monash University,
Australia)

「Obesity Epidemic in Asia: Issues and Challenges.」

Dr. Mohd Ismail Noor
(Emeritus Professor in Nutrition,
Taylor's University, Malaysia)

「Nutrient Standards.」

Prof. Hee Young Paik
(Seoul National University, Korea)

「The Early Life Origins of Non-Communicable Diseases: An Overview of Recent Advances.」

Dr. Graham C Burdge
(University of Southampton, UK)

「There is an Obesity Metabolic Program in Muscle.」

Prof. G. Lynis Dohm
(East Carolina University, USA)

「Nutrigenomics and Nutrigenetics: The New Paradigm for Optimising Health and Preventing Disease.」

Prof. Michael Fenech
(CSIRO Food and Nutrition,
Australia)

「Type 2 Diabetes in Asians: Can Diet Make a Difference?」

Prof. Jeyakumar Henry
(Clinical Nutrition Research
Centre, Singapore Institute of
Clinical Sciences. A*STAR, Singapore)

*シンポジウム 48 テーマ

*市民公開講座 3 テーマ

一般講演 1482 題

参加者数 3769 名 (内 非会員 1793 名)

参加国 51 カ国 (内 国外 1149 名)

(2) 支部事業

①北海道支部

*第 45 回日本栄養・食糧学会北海道支部大会 (東北支部と合同大会)

平成 27 年 10 月 24 日 (土) ~25 日 (日) 東北大学農学部 (雨宮キャンパス)

公開シンポジウム「高血圧症・腎臓病に関する最近の動向」

「腎不全時の腸内環境変化とその治療」

阿部 高明 (東北大学大学院)

「食塩負荷による腎尿細管酸化ストレス産生の増大と血圧上昇メカニズム」

大崎 雄介 (東北大学大学院)

「腎不全と栄養」

宮崎 真理子 (東北大学病院)

参加者数 110 名 (内 非会員 45 名)

一般講演 26 題

②東北支部

*第 49 回日本栄養・食糧学会東北支部大会 (北海道支部と合同大会)

平成 27 年 10 月 24 日 (土) ~25 日 (日) 東北大学農学部 (雨宮キャンパス)

公開シンポジウム「高血圧症・腎臓病に関する最近の動向」

「腎不全時の腸内環境変化とその治療」

阿部 高明 (東北大学大学院)

「食塩負荷による腎尿細管酸化ストレス産生の増大と血圧上昇メカニズム」

大崎 雄介 (東北大学大学院)

「腎不全と栄養」

宮崎真理子 (東北大学病院)

参加者数 110 名 (内 非会員 45 名)

一般講演 26 題

③関東支部

*第 96 回日本栄養・食糧学会関東支部大会

平成 27 年 9 月 5 日 (土) 新潟大学 農学部 C 棟 110 講義室

シンポジウム「高次な生命活動の中のアミノ酸と栄養」

「睡眠の意義とグリシンが睡眠に及ぼす影響」

坂内 慎 (味の素株式会社)

「網羅的プロテオーム解析が捉えるアミノ酸トランスポーターによる生体システム制御」

永森 収志 (大阪大学大学院)

「ES/iPS 細胞分化制御におけるアミノ酸代謝」

白木 伸明 (東京工業大学大学院)

参加者数 72 名 (内 非会員 35 名)

一般講演 26 題

*第 18 回脂質栄養シンポジウム

平成 28 年 1 月 31 日 (土) お茶の水女子大学 大学講堂

シンポジウム「栄養事情の今～身近に潜む低栄養～」

「低栄養の定義と歴史」

中村 丁次 (神奈川県立保健福祉大学)

「葉酸代謝から見たビタミン不足」

平岡 真美 (淑徳大学)

「周産期の栄養と DOHaD 仮説」

望月 和樹 (山梨大学)

「高齢者の栄養管理一特にフレイル・サルコペニア予防を目指して」

葛谷 雅文 (名古屋大学大学院)

「隠れた栄養失調に対する栄養指導」

足立香代子 (臨床栄養実践協会)

参加者数 397 名 (内 非会員 267 名)

*第 97 回日本栄養・食糧学会関東支部大会

平成 28 年 3 月 12 日 (土) 東京大学 弥生キャンパス

シンポジウム「代謝研究の新たな潮流」

「転写制御を介した食品成分の抗メタボリックシンドローム作用」

井上 順 (東京大学大学院)

「脂肪酸伸長酵素 Elovl6 による脂肪酸組成制御と生活習慣病」
「腸内環境を介した免疫制御の基礎的解明と創薬、機能的食品開発への展開」
「長鎖高度不飽和脂肪酸と脳機能」

松坂 賢 (筑波大学)
國澤 純 ((国)医薬基盤・健康・
栄養研究所)
河島 洋 (サントリーウエルネス
株式会社)

特別講演

「食と栄養と健康：生命活動から文化へ、その行き先は？」
参加者数 60名 (内 非会員 29名)

横山 信二 (中部大学)

④中部支部

*第68回日本栄養・食糧学会中部支部大会

平成27年7月18日(土) 静岡県立大学 一般教育棟(2103室)

特別講演「コレステロール代謝制御に関する栄養食糧学的研究」

長岡 利 (岐阜大学)

公開シンポジウム「摂食と運動をめぐる分子栄養学の展望」

「味蕾および腸管幹細胞の三次元培養と機能解析」

岩槻 健 (東京農業大学)

「肥満における食欲調節機構の破綻と合併症予防ーアディポサイトカインの役割・EPAの効果」

浅原 哲子 (京都医療センター)

三浦 進司 (静岡県立大学)

「骨格筋におけるエネルギー代謝制御研究の新展開」

参加者数 64名 (内 非会員 24名)

*第69回日本栄養・食糧学会中部支部大会

平成27年11月21日(土) 静岡県立大学 看護学部棟 4階

特別講演「おいしさの科学と高齢者の食嗜好」

伏木 亨 (龍谷大学)

参加者数 106名 (内 非会員 49名)

一般演題 11題

⑤近畿支部

*第54回日本栄養・食糧学会近畿支部大会

平成27年10月10日(土) 神戸大学 六甲台第2キャンパス 農学部学舎

シンポジウム「栄養機能を調整する食品素材の開発」

「黒大豆種皮ポリフェノールの機能性と素材開発」

難波 文男 (フジッコ株式会社)

「甘草グラブラポリフェノールのヒトにおける体脂肪低減作用及び筋肉増量作用の検証」

中川 格 (株式会社カネカ)

古屋敷 隆 (江崎グリコ株式会社)

「糖質素材の開発と食品分野への応用」

特別講演

「オートファジーと栄養：過去から未来へ」

門脇 基二 (新潟大学大学院)

参加者数 243名 (内 非会員 29名)

一般演題 51題

*第6回栄養学を志す若手のためのフォーラム

平成27年10月11日(日) 神戸大学百年会館(六甲ホール)

日本栄養改善学会近畿支部と共催

テーマ「和食とその機能性から健康長寿を考える」

「コメの新たな機能性について」

門脇 基二 (新潟大学大学院)

「メタボロミクスによる和食の機能性研究」

吉田 優 (神戸大学大学院)

「和食の魅力と、次世代に継承することの意義」

的場 輝佳 (関西福祉科学大学)

参加者数 88名 (内 非会員 56名)

一般演題 3題

⑥中国・四国支部

*第48回日本栄養・食糧学会中国・四国支部大会

平成27年10月31日(土) メルパルク広島

平成27年11月1日(日) 広島女学院大学ソフィア2号館

市民公開講座「生活の中で生かす機能的食品」

「植物からの機能性成分ー食物繊維とポリフェノールー」

岸田 太郎 (愛媛大学)

「食酢の機能と健康ー酢酸のメタボリックシンドローム予防効果ー」

山下 広美 (岡山県立大学)

特別講演

「少量のアルコールは健康に良い？ーアルコールのJカーブ効果の検証ー」

加藤 範久 (広島大学大学院)

「腸管モデルを利用した機能的食品素材の新規機能性評価システム構築に向けた取り組み」

大澤 朗 (神戸大学大学院)

参加者数 57名 (内 非会員 12名)

一般講演 25題

⑦九州・沖縄支部

*第68回日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部大会

平成 27 年 10 月 30 日 (金) ネストホテル那覇
平成 27 年 10 月 31 日 (土) 沖縄県市町村自治会館
日本食品科学工学会西日本支部と合同大会開催
特別講演

「内臓脂肪をためない食生活の実現に向けて一機能性食品研究と食事研究」
「欧州における食品科学研究の動向と展望」

桂木 能久 (花王株式会社)
ハリー・グルペン (オランダ・ワーゲン
ンゲン大学)

市民公開フォーラム「食・健康と沖縄」
「グッド・ダイエットでアディポネクチンを増やそう！」
「沖縄を食べる～島ヤサイ、フルーツ、そして黒糖」
「琉球泡盛～日本最古の蒸留酒・その技術」
参加者数 148 名 (内 非会員 16 名)

前田 和久 (大阪大学大学院)
広瀬 直人 (沖縄県農業研究センター)
玉村 隆子 (沖縄県工業技術センター)

一般講演 60 題

2) 大会事業準備

(1) 第 70 回日本栄養・食糧学会大会の開催 (会頭 中野 長久 大阪府立大学名誉教授)

平成 28 年 5 月 13 日 (金) ～5 月 15 日 (日) 兵庫県神戸市・西宮市

* 特別講演 6 題
* 教育講演 4 題
* シンポジウム 15 テーマ
* 市民公開講座 1 テーマ
一般講演 630 題

(2) 第 71 回日本栄養・食糧学会大会開催準備

平成 29 年 5 月 19 日 (金) ～5 月 21 日 (日) 沖縄県宜野湾市

九州・沖縄支部 (準備責任者 山田 耕路 崇城大学大学院教授) が開催担当支部として準備を進めてきた。

(3) 第 72 回日本栄養・食糧学会大会開催準備

平成 30 年度の本大会の開催担当支部及び開催地が中国・四国支部で岡山県岡山市・総社市において実施予定となった。
(第 6 回理事会 3/21 決議)

大会準備責任者として、辻 英明 岡山県立大学学長が選任された (第 6 回理事会 3/21 決議)。

3) 表彰事業および助成・助成推薦事業

本事業は、各種授賞等選考委員会並びに学会活動強化委員会を通じ展開された。

(1) 第 1 回各種授賞等選考委員会 (5/13) が開催され、事業方針・スケジュールを確認した。

(2) 第 2 回各種授賞等選考委員会 (12/12) が開催され、学会賞 2 件、奨励賞 2 件、技術賞 2 件、栄養・食糧学基金研究助成対象者 2 件、栄養・食糧学基金若手助成対象者 2 件を推薦し理事会に上申した。

(3) 学会活動強化委員会活動としては、

- ① 学術企画の支援として学会活動強化費申請 (6 件) のメール審査を行い、修正後、再提出を求めたうえで全て承認した。
- ② 学会活動強化委員会を開催し (5/15)、会員増・若手活動強化費の運用について検討した結果、28 年度から学生優秀発表賞・栄養・食糧学基金若手助成の募集することを決定した。
- ③ 栄養・食糧学基金研究助成・若手研究助成・国際助成の審査を行い、各種授賞等選考委員会へ報告を行った。
- ④ 学生優秀発表賞の応募、選考を行った。

(4) 平成 27 年度表彰授与式開催

① 平成 27 年度受賞者

功労賞 (佐伯賞)	矢ヶ崎 一三				
学会賞	加藤 久典	長岡 利			
奨励賞	市 育代	水野谷 航			
技術賞	長尾 健児	野口 泰志	神通 寛子	中村 英寛 (味の素株式会社)	
技術賞	大隈 一裕	飯田 哲郎	林 範子	山田 貴子 (松谷化学工業株式会社)	
	徳田 雅明	松尾 達博	(香川大学)		

② 平成 27 年度栄養・食糧学基金研究助成者

栄養・食糧学基金研究助成 水重 貴文

(5) 平成 28 年度対象の各賞候補者の公募、栄養食糧学基金の研究助成・若手研究助成対象者募集記事を学会誌 4 号、HP 及びメールニュースに掲載した。栄養食糧学基金 国際交流助成前期の募集を学会誌 68-6 号、HP 及びメールニュースに掲載した。

(6) 表彰事業の協賛のため 6 企業・団体へ依頼し応諾された。

(7) 下記外部団体からの研究褒賞候補者推薦依頼・研究助成募集の周知を図った。

①研究褒賞候補者推薦依頼

天野エンザイム(株)/酵素応用シンポジウム研究奨励賞 (公財)安藤スポーツ・食文化振興財団/安藤百福賞
(公財)飯島藤十郎記念食品科学振興財団/飯島藤十郎食品科学賞&飯島藤十郎食品技術賞
(公財)上原記念生命科学財団/上原賞 (公財)木原記念横浜生命科学財団/学術賞
慶應義塾医学振興基金/慶應医学賞 (公財)杉浦地域医療振興財団/杉浦地域医療振興賞
第一生命保険株式会社/保健文化賞 辻静雄料理研究所/辻静雄食文化賞
(一財)東京顕微鏡院/遠山椿吉記念、食と環境の科学賞 (公財)内藤記念科学振興財団/内藤記念科学振興賞
(公財)全日本病院協会/明日の象徴 (一社)日本医師会/日本医師会医学賞・医学研究奨励賞
(独)日本学術振興会/日本学術振興会賞・育志賞 日本学術会議/Harvey 賞
(一社)日本病院会/山上の光賞 (公社)日本看護協会/ヘルシー・ソサイエティ
ネスレ栄養科学会議 福井県小浜市/杉田玄白賞
(公財)三島海雲記念財団/三島海雲学術賞 (公財)森永奉仕会/森永奉仕会賞

②研究助成募集の周知

(公財)飯島藤十郎記念食品科学振興財団 (公財)医療科学研究所
(公財)浦上食品・食文化振興財団 (公財)エリザベス・アーノルド富士財団
国立科学研究法人科学技術振興機構 (一財)旗影会
公益信託家政学研究助成基金 (公財)サッポロ生物科学振興財団
(一財)サンスター財団 (公財)笹川スポーツ財団
(一社)Jミルク (公財)杉浦記念財団
(公財)ソルト・サイエンス研究財団 (公財)タカノ農芸化学研究助成財団
(公財)ダノン健康・栄養財団 (一社)中央味噌研究所
(公財)東洋食品研究所 (公財)内藤記念科学振興財団
(一社)日本医師会 (公財)日中医学協会
(公財)日本科学協会 (公財)日本食品化学振興財団
(一財)ニッポンハム食の未来財団 ネスレ栄養科学会議
農林水産省農林水産技術会議事務局研究企画課 (一財)バイオインダストリー協会
ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ(株) (公財)ファイザーヘルスリサーチ振興財団
(公財)不二たん白質研究振興財団 (公財)ホクト生物科学振興財団
(公財)本庄国際奨学財団 (公財)三島海雲記念財団
(公財)森永奉仕会 やざや食と健康研究所
(公財)山崎香辛料振興財団 (公財)山田科学振興財団
(株)山田養蜂場 (公財)ロッテ財団

(8) 外部団体への推薦

①公益財団法人三島海雲記念財団 (三島海雲学術賞)

各種授賞等選考委員によるメール審査の結果、1件を学会として推薦

②公益財団法人 森永奉仕会

i) 平成26年度森永奉仕会研究奨励金受賞 (平成27年7月3日受理)

③公益財団法人飯島藤十郎記念食品振興財団

i) 飯島藤十郎記念食品科学賞

各種授賞等選考委員によるメール審査の結果、1件を学会として推薦

ii) 研究者の海外派遣援助募集

各種授賞等選考委員によるメール審査の結果、1件を学会として推薦
研究者の海外派遣援助費交付決定 (3月9日受理)

(9) 研究活動の奨励

第69回大会時に下記関連学術集会を支援

①スポーツ栄養学研究会の開催

②ヒトエネルギー代謝研究若手の会開催

4) 栄養・食糧科学に関する研究・調査事業

本事業は、下記2テーマとも非常置委員会としてそれぞれの委員会で展開された。

以下各テーマについて主な進捗を報告する。

(1) 栄養成分表示・栄養教育の検討

69回大会において、「栄養・機能性表示に関する日本語のシンポジウム」を開催。機能性表示食品について栄養・食糧学誌に総説としてまとめ、タイトルを「保健機能食品の課題と展望」とすることにした。

(2) 栄養・食糧学用語に関する検討

栄養・食糧用語辞典 (第2版) 出版

栄養・食糧用語辞典 (第2版) における見出し語ならびに説明文の検証を開始

5) 国際交流事業

(1) 第12回アジア栄養学会議 (12th ACN2015) 開催

本事業は、国際交流委員会及び12th ACN組織委員会を中心に展開され、成功裏に終了した。

(2) Federation of Asian Nutrition Societies (FANS)

FANS 総会において宮澤陽夫 東北大学教授が会長に就任、加藤久典 東京大学特任教授が事務局長に就任し、事務局がシンガポールから日本に移行され、FANS ウェブサイトの移行も完了した

(3) International Union of Nutritional Sciences (IUNS) 関係

宮澤陽夫 IUNS 理事を通して IUNS 理事会との連携を密にした。

第22回国際栄養学会議 (22nd ICN2021 東京) の準備体制を整えるとともに、第21回会議 (21st ICN2017 アルゼンチン) で求められる状況報告と広報活動のため PCO (Professional Congress Organizer) を公募し、選定した。これは PCO 選定ワーキンググループによって行われた。

IUNS 栄養学のリーダーシップ育成国際ワークショップ開催計画を検討した。

(4) International Union of Food Science and Technology (IUFoST) 関係

IUFoST Japan と連携しその事業を支援した。

(5) 海外関連学会との連携

第12回アジア栄養学会議期間中に米国栄養学会 ASN Author Workshop を開催した。

国際学術団体との連携を図った。

6) 倫理審査事業

本事業は、倫理審査委員会を通じ展開されている。

(1) 倫理審査申請依頼 (申請番号 80 番) に基づき倫理審査委員会を開催 (4/25)、審査結果に基づき承認

(2) 倫理審査申請依頼 (申請番号 81 番) に基づきメール審議で倫理審査委員会を開催、審査結果に基づき承認

(3) 倫理審査申請依頼 (申請番号 82 番) に基づきメール審議で倫理審査委員会を開催、審査結果に基づき承認

< 栄養科学並びに食糧科学情報の活用推進と普及事業（公2） >

1) 出版事業の推進

本事業に関しては、日本栄養・食糧学会誌編集委員会が担当するとともに、JNSV 刊行においては、日本ビタミン学会との共同編集として発刊した。これらの学術誌の発刊は、(財)学会誌刊行センターに委託している。

(1) 日本栄養・食糧学会誌 68 巻 2 号～6 号、69 巻 1 号

① 投稿状況

2016 年 3 月 31 日現在 投稿数（うち採択数）

受付日	全投稿数	総説	報文	研究ノート	資料	速報
2014 年 4 月	4(1)	0	4(1)	0	0	0
2014 年 5 月	1(0)	0	1(0)	0	0	0
2014 年 6 月	4(2)	1(1)	1(0) 注2	1(1) 注1	1(0)	0
2014 年 7 月	5(3)	2(2)	2(0)	1(1) 注2	0	0
2014 年 8 月	5(4)	1(1)	1(1)	1(1)	0	2(1) 注3
2014 年 9 月	3(2)	0	1(0)	0	2(2) 注4	0
2014 年 10 月	4(3)	0	3(2) 注5	1(1)	0	0
2014 年 11 月	2(0)	0	1(0)	1(0) 注6-1	0	0
2014 年 12 月	1(1)	0	1(1)	0	0	0
2015 年 1 月	4(1)	0	4(1) 注7、注9	0	0	0
2015 年 2 月	1(0)	0	1(0) 注5	0	0	0
2015 年 3 月	3(1)	0	1(0) 注8	1(0) 注6-2	1(1)	0
2015 年 4 月	4(2)	0	2(0)	2(2) 注7、注8	0	0
2015 年 5 月	3(1)	0	3(1)	0	0	0
2015 年 6 月	0	0	0	0	0	0
2015 年 7 月	4(3)	2(2)	2(1) 注10	0	0	0
2015 年 8 月	3(3)	2(2)	0	0	1(1)	0
2015 年 9 月	5(3)	1(1)	2(1)	2(1) 注11	0	0
2015 年 10 月	3	1	1 注10	0	1(0)	0
2015 年 11 月	4(1)	2(1)	2 注12	0	0	0
2015 年 12 月	2	0	1	1(1) 注12	0	0
2016 年 1 月	2(0)	0	1(0)	1(0) 注13	0	0
2016 年 2 月	3	0	2 注14	0	1 注13	0
2016 年 3 月	3	0	1	1	1	0

注 1. 1 報は一旦取り下げの後、再び研究ノートとして 6 月に再投稿

注 2. 掲載否の後、改めて研究ノートとして 7 月に再投稿

注 3. 1 報は一旦取り下げ 注 4. 1 報は報文からの種別変更

注 5. 1 報は掲載否の後、再び報文として 2 月に再投稿されたが、その後に取り下げ

注 6-1. 報文からの種別変更

注 6-2. 注 6-1. が掲載否の後、再び研究ノートとして 3 月に再投稿

注 7. 1 報は掲載否の後、改めて研究ノートとして 4 月に再投稿

注 8. 掲載否の後、改めて研究ノートとして 4 月に再投稿

注 9. 1 報は修正依頼期限を過ぎても再投稿されず、アーカイブへ移動

注 10. 1 報は掲載否の後、再び報文として 10 月に再投稿

注 11. 1 報は取り下げ

注 12. 1 報は一旦取り下げの後、改めて研究ノートとして 12 月に再投稿

注 13. 一旦取り下げの後、改めて資料として 2 月に再投稿

注 14. 1 報は取り下げ

*2014 年度 投稿論文 37 編
 採択率 53% (取り下げ除く)
 掲載可 18 編 (平均所要日数 87 日) 掲載否 16 編 (平均所要日数 47 日)
 取り下げ 3 編 審査中 0 編

*2015 年度 投稿論文 37 編
 採択率 63% (取り下げ及び審査中除く)
 掲載可 15 編 (平均所要日数 75 日) 掲載否 9 編 (平均所要日数 42 日)
 取り下げ 4 編 審査中 9 編

②発行状況

巻号	総説	報文	研究ノート	資料	速報	書評	計
68-2	0	0	1	1	1	1	4
68-3	0	3	0	0	0	2	5
68-4	0	2	0	1	0	2	5
68-5	0	0	2	1	0	6	9
68-6	2	1	0	0	0	3	6
69-1	1	2	0	0	0	1	4
総計	3	8	3	3	1	15	33

③刊行状況

巻号	納本日	予定日
68-2	4月10日	4月10日
68-3	6月10日	6月10日
68-4	8月10日	8月10日
68-5	10月13日	10月10日
68-6	12月10日	12月10日
69-1	2月10日	2月10日

④編集委員会は5月16日に1回開催した。
学会誌投稿規定を改定

(2) Journal of Nutritional Science and Vitaminology (JNSV)

①編集状況

日本ビタミン学会との共同編集 Vol. 61-No. 2~No. 6、Vol. 62-No. 1の刊行

平成28年3月10日現在

理事会 資料提出日	Vol	年	分野別投稿数						分野別採択数						備考
			Total	V	N	F	R	Note	Total	V	N	F	R	Note	
3月21日	61	2015	27	6	16	5	1	7	29	4	18	7	0	3	61-2まで
5月13日			52	12	30	10	1	11	41	8	26	7	0	7	61-3まで
7月11日			98	17	60	21	1	19	51	9	34	8	0	10	61-4まで
1月23日			184	39	113	32	3	29	75	14	46	15	0	17	61-6まで
3月10日	62	2016	48	8	37	3	1	5	21	9	9	3	1	3	62-2まで

Total は、V、N、Fの合計。

(各号の内訳)							巻号
Total	V	N	F	R	Note		
15	2	10	3	0	2	61-1	
14	2	8	4	0	2	61-2	
12	4	8	0	0	3	61-3	
10	1	8	1	0	3	61-4	
11	3	6	2	0	3	61-5	
13	2	6	5	0	4	61-6	
11	4	5	2	1	1	62-1	
10	5	4	1	0	2	62-2	

V:ビタミン N:栄養 F:食品 R:総説

JNSV投稿内訳および結果

Vol.	Year	Total No.*	V		N		F		R	Note		年間掲載数	頁	審査中	可	否(取下)
			投稿数	掲載数	投稿数	掲載数	投稿数	掲載数		投稿数	掲載数					
50	2004	107	18	15	68	48	21	11				75	465			
51	2005	115	26	14	76	49	13	15	1	15	17	78	499			
52	2006	137	19	17	88	43	30	11	1	16	11	71	497			
53	2007	134	22	16	92	51	20	21	2	18	17	88	577			
54	2008	154	20	16	103	57	31	8	3	23	11	81	531			
55	2009	165	23	10	112	56	30	12	1	28	16	78	538			
56	2010	172	29	11	115	44	28	13	1	25	12	68	470			
57	2011	167	28	8	104	49	35	8	2	24	10	65	460			
58	2012	153	33	11	107	43	13	11	1	28	18	65	466			
59	2013	144	27	22	96	51	21	7	4	24	20	80	614			
60	2014	146	29	11	80	42	27	13	3	27	11	66	471	0	76	70
61	2015	183	38	14	113	46	32	15	0	29	17	75	543			

* V, N, Fの合計。

2015/12/31現在

採 択 日 数

	60日以内	90日以内	120日以内	180日以内	180日を 超える	全採択数
2004年 (採択数)	4.2% 3	11.3% 8	21.1% 15	43.7% 14	18.7% 31	71
2005年 (採択数)	5.8% 4	30.4% 21	17.4% 12	11.6% 8	34.8% 24	69
2006年 (採択数)	8.2% 7	32.9% 28	23.5% 20	18.9% 16	16.5% 4	85
2007年 (採択数)	15.4% 12	30.8% 24	28.2% 22	15.3% 12	10.3% 8	78
2008年 (採択数)	19.2% 15	30.8% 24	17.9% 14	28.2% 22	3.8% 3	78
2009年 (採択数)	29.9% 20	26.9% 18	13.4% 9	20.8% 14	9.0% 6	67
2010年 (採択数)	23.3% 17	19.2% 14	17.8% 13	32.9% 24	6.8% 5	73
2011年 (採択数)	17.9% 10	25.0% 14	25.0% 14	28.5% 16	3.6% 2	56
2012年 (採択数)	26.1% 17	27.7% 18	20.0% 13	21.0% 24	5.2% 4	76
2013年 (採択数)	23.6% 17	25.0% 18	27.8% 20		6.6% 5	76
2014年 (採択数)	11.8% 17	17.1% 18	17.1% 13		10.5% 8	76

論 文 採 択 率

	投稿数	可	《採択率》	否	取下げ	他誌へ	審査中
2003年	124	88	71.0%	23	11	2	
2004年	107	71	66.4%	21	13	2	
2005年	115	69	60.0%	28	15	3	
2006年	137	85	62.0%	37	13	2	
2007年	134	78	58.2%	38	10	8	
2008年	154	78	50.6%	65	9	3	
2009年	165	67	40.6%	87	6	5	
2010年	172	73	42.4%	83	8	8	
2011年	167	56	33.5%	98	10	3	
2012年	153	76	49.7%	65	6	6	
2013年	144	76	52.8%	56	5	7	
2014年	146	76	52.1%	51	14	5	

論文採択率（国内・海外内訳）

	投稿数		可		採択率		否		取下げ		他誌へ		審査中	
	国内	海外	国内	海外	国内	海外	国内	海外	国内	海外	国内	海外	国内	海外
2011年	106	61	50	6	47.2%	9.8%	49	49	5	5	2	1	0	0
2012年	105	48	62	14	59.0%	29.2%	35	30	5	1	3	3	0	0
2013年	88	56	62	14	70.4%	25.0%	19	37	2	3	5	2	0	0
2014年	88	58	56	20	63.6%	34.5%	17	34	11	3	4	1	0	0

②投稿数・掲載数ともに順調に推移したが、インパクトファクター(2016年3月現在0.826)が下降している。

J-STAGEを用いたオンラインWeb審査システムが順調に稼働している。海外からの投稿の採択率が低かったが、質の高い論文が増えてきており、オンライン化のメリットが出てきている可能性がある。

③編集委員の交代(2名)

(3) 学会監修出版物

「食品因子による栄養機能制御」	芦田 均、立花 宏文、原 博(編)	建帛社
「栄養・食糧学用語辞典」(第2版)	用語辞典編集ワーキンググループ	建帛社

2) 広報事業

本事業は、広報委員会を通じ展開された。

(1) 報道機関向け広報

①第69回大会開催にあたり、報道機関へプレスリリースを実施した。(平成27年4月17日)

②第70回大会開催にあたり、報道機関へ事前に主なテーマについての発表(平成28年4月25日)実施の準備

(2) 会員向け情報の告知

学会内の動き、関連学術団体、関連機関(大学・官庁等)からの情報、依頼記事(募集・告知等)について、広報推進を行った。

①ホームページ管理業務委託業者を通じ、定期的及び緊急的に情報を掲載

②会員向けメールマガジン栄食ニュースは1回/月のペースで発信

ホームページへの掲載の紹介及びタイムリーな記事掲載を行い、以下15号発信

2015-4(通算146号 4/10)、2015 臨時号(4/28)、2015-メールニュース訂正号(5/1)、2015-5&ACN直前号(通算147号 5/11)、2015-6(通算148号 6/10)、2015-7(通算149号 7/10)、2015-8(通算150号 8/10)、2015-平成27年度代議員選挙時実施のお知らせ(9/7)、2015-9(通算151号 9/10)2015-10(通算152号 10/10)、2015-11(通算153号 11/10)、2015-12(通算154号 12/10)、2016 大会演題登録締切延長(臨時号 12/16)2016-1(通算155号、1/12)、2015-2(通算156号、2/10)、2015-3(通算157号、3/10)

③国内学術団体からの事業関連の連絡・通知

*日本学術会議

日本学術会議発行メールニュース(No.488~No.541)の周知の実施

*日本医学会

シンポジウム等の開催周知協力の実施

III 管理業務報告

(1) 内閣府からの通知・連絡対応

①内閣府より

*公認認定等委員会だより(その41~その48)受理

*メール通知「事業報告等の提出」提出のお知らせ(5/1)

*メール通知「ゆう活(夏の生活スタイル変革)に関する取組について」(5/21受理)

*メール通知「事業報告等の提出」提出のお知らせ(6/1)

*メール依頼「節電対策の取り組みについて」(6/3受理、7月下旬HP掲載)

*立ち入り検査について(6/19受理)

*メール通知「貴法人の運営組織及び事業活動の状況に関する立ち入り検査の実施について(通知)(6/22受理)

*メール通知「*メール通知「事業報告等の提出」受付のお知らせ(6/25)

*内閣府立ち入り検査(7/24実施)

*メール依頼「冬季節電に関するご協力のお願について」(11/25受理)

*メール通知「事業計画書等の提出」(3か月前)の案内(1/1受理)

*メール通知「事業計画書等の提出」(1か月前)の案内(3/1受理)

*メール通知「事業計画書等の提出完了」(整理番号1600171977)の案内(3/28)

②内閣府へ

*「国と特に密接な関係がある公益法人への該当性の有無」をメールにて提出(4/1)

*平成26年度事業報告書等をWeb上で送信(6/25)

*立ち入り検査指摘事項対応打ち合わせ(10/20)

*平成 28 年度事業計画書等を Web 上で送信 (3/28)

(2) 文部科学省

- *平成 27 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術省及び若手科学者賞受賞候補者の推薦について (6/3 受理、7/17 回答)
- *【周知】研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインに基づく間接経費措置額の削減割合の基準等について (6/23 受理、理事に連絡)
- *科学技術週間ポスターの送付 (2/24 受理)

(3) 厚生労働省

- *【医薬品・医療機器安全性情報】No. 322~No. 331 の周知依頼
- *倫理審査委員会認定申請提出 (8/11 受理、9/4 提出)

(4) 農林水産省

- *平成 28 年度委託プロジェクト研究課題の公募について (2/2 受理、HP 掲載)

(5) 日本学術会議

- ①日本学術会議発行メールニュース (No. 488~No. 541) の周知
- ②生活科学系コンソーシアムへの参加

(6) 日本医学会・日本医学連合

- ①[ibunka-ml]の周知
- ②[rengo-ml]の周知
- ③日本医学会だよりの掲載
- ④日本医学会に関するアンケートの回答
- ⑤日本医学連合定時総会 (平成 27 年 6 月 24 日) への出席
- ⑥日本医学会・医学用語委員会 (平成 27 年 12 月 1 日) への出席
- ⑦日本医学連合新専門制度説明会 (平成 28 年 2 月 2 日) への出席
- ⑧日本医学会定例評議員会 (平成 26 年 2 月 17 日) への出席

(7) 関連団体との共催、協賛、後援の許可

- ・ISLI Japan「第 7 回栄養エイジング国際会議」後援
- ・日本メイラード学会「第 12 回国際メイラード反応シンポジウム」後援
- ・日本食品・機械研究会「第 13 回高付加価値食品開発のためのフォーラム」協賛
- ・一般社団法人心の絆プロジェクト「被災地支援活動『心の絆プロジェクト』」後援
- ・広島バイオテクノロジー推進協議会「平成 27 年度広島バイオテクノロジー推進協議会通常総会記念講演」後援
- ・公益財団法人不二たん白質研究財団「公開講演会『大豆のはたらき in 名古屋一食を通して健やかな人生をー』」協賛
- ・日本生理人類学会「第 12 回国際生理人類学会」協賛
- ・一般社団法人日本人間工学会「第 5 回人間—生活環境系国際会議」後援
- ・公益社団法人米穀安定供給確保支援機構「平成 27 年度「食育健康サミット」」後援
- ・公益社団法人 日本油化学会「第 15 回基準油脂分析試験法セミナー」協賛
- ・一般社団法人日本キッチン・キトサン学会「第 30 回日本キッチン・キトサン学会大会」協賛
- ・ネスレ栄養科学会議「食と生命のサイエンス・フォーラム」後援
- ・国際こめ油協会「第 3 回国際こめ油会議」後援
- ・日本応用糖質科学会平成 28 年度大会後援依頼
- ・日本糖質学会「第 35 回日本糖質学会年会」共催
- ・NPO 法人うま味インフォメーションセンター「うま味シンポジウム」後援
- ・食品ハイドロコロイド研究会「第 27 回食品ハイドロコロイドシンポジウム」協賛
- ・食品ハイドロコロイド研究会「食品ハイドロコロイドセミナー2016」協賛
- ・日本アミノ酸学会「日本アミノ酸学会 10 周年記念大会」協賛
- ・公益財団法人ダノン健康栄養財団「第 18 回ダノン健康栄養フォーラム」後援
- ・第 21 回国際疫学会総会事務局「第 21 回国際疫学会総会」後援
- ・タマゴ科学研究会「第 4 回タマゴシンポジウム」後援

(8) 利益相反 (COI) 関連

現在ある「臨床研究の利益相反に関する指針 (改訂案)」を当学会に相応しい指針「栄養・食糧学研究の利益相反に関する指針」として、COI 状態の報告方法等の内容を継続検討している。

第 70 回大会で本学会の COI 管理について講演を企画

IV 総会、理事会、等の開催状況

(1) 社員総会

平成 27 年 5 月 14 日 (木) 9 : 30 ~ 10 : 20 パシフィコ横浜 メインホール (会議センター 1 階)

(2) 理事会

平成 27 年 4 月 25 日 (土) 13 : 30 ~ 15 : 20 お茶の水女子大学
平成 27 年 5 月 13 日 (水) 15 : 00 ~ 17 : 30 パシフィコ横浜 会議センター 212 号室
平成 27 年 7 月 11 日 (土) 13 : 00 ~ 17 : 00 お茶の水女子大学
平成 27 年 11 月 3 日 (火) 13 : 00 ~ 16 : 00 お茶の水女子大学
平成 28 年 1 月 23 日 (土) 13 : 30 ~ 17 : 00 お茶の水女子大学
平成 28 年 3 月 21 日 (月) 13 : 30 ~ 16 : 30 お茶の水女子大学

(3) 業務執行理事打合せ

平成 27 年 7 月 4 日 (土) 13 : 30 ~ 17 : 00 お茶の水女子大学
平成 27 年 10 月 25 日 (日) 13 : 00 ~ 15 : 00 お茶の水女子大学
平成 28 年 1 月 9 日 (土) 13 : 30 ~ 16 : 30 お茶の水女子大学
平成 28 年 3 月 13 日 (日) 13 : 30 ~ 17 : 00 お茶の水女子大学

(5) 名誉会員・顧問懇談会

平成 27 年 4 月 4 日 (土) 11 : 30 ~ 13 : 30 松柏軒

(6) 名誉会員・終身会員推薦委員会

平成 28 年 1 月 9 日 (土) 13 : 50 ~ 14 : 10 お茶の水女子大学

(7) 日本栄養・食糧学会あり方検討委員会

平成 27 年 7 月 4 日 (土) 11 : 00 ~ 13 : 20 お茶の水女子大学
平成 27 年 10 月 25 日 (日) 10 : 30 ~ 12 : 30 お茶の水女子大学
平成 28 年 3 月 13 日 (日) 11 : 00 ~ 13 : 00 お茶の水女子大学